

2016年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科						
科目名	電気工学基礎実験Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次後期		
必修・選択の別	必修(組み込みシステムコース)/必修(電気エネルギーコース)/必修(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実、江崎 秀、牟田 浩司、堀内 幸造						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> 交流計器の取り扱いと計器を用いた交流電気磁気測定法を習得する。 線形受動素子を含む交流回路の周波数特性を理解する。 ダイオード(非線形受動素子)を含む回路の性質と応用について理解する。 回路の過渡現象について理解する。 機器や文献の調査研究、技術レポート作成手法を学ぶ。 						
日程と内容	<p>実験テーマ：(1) 交流回路の測定、(2) 交流磁界の発生と測定、(3) ダイオードによる整流回路、(4) 過渡現象、を第1回から第8回まで実験実施日程表に基づいて行う。これらの実験が終了した者のみ、応用実験に着手することができる。</p> <p>第1回：実験第1回 第2回：レポート第1回 第3回：実験第2回 第4回：レポート第2回 第5回：実験第3回 第6回：レポート第3回 第7回：実験第4回 第8回：レポート第4回 第9回：応用実験①(回路実装実習) 第10回：応用実験①(回路実装実習) 第11回：応用実験②(回路実装実習) 第12回：応用実験②(回路実装実習) 第13回：実験予備日、授業実施実績確認、授業評価 第14回：実験予備日、授業実施実績確認 第15回：実験予備日、授業実施実績確認</p>						
成績評価基準	定期試験			実技			60%
	臨時試験			部外評価			
	報告書・レポート	40%		プレゼンテーション			
	課題 演習			計			100%
授業到達目標の達成度	<p>実験を欠席する学生は殆どいないが、レポートの期限を守れない学生が多い。前期に比べると不合格者が少ないように思う。レポートの体裁は整っているので受理するが、真に授業到達目標を達成しているかどうかについては、怪しいところがある。ただ、このようなことの繰り返しで本当に身に付いていくのだろうと思う。</p>						
反省点	<p>応用実験のパーツで不足しているものがあつた。消耗するパーツにもかかわらず繰り返し使用しているので。</p>						
来年度の計画	<p>新カリキュラムへの移行の伴い、実験テーマが変更になる予定。応用実験の機材を更新する。応用実験の配点を再検討</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>すべての項目について、平均値が4.2から4.4、総合評価8.8。授業科目独自のアンケートもとっているが、学生は、実験の内容、実施方法、レポート、TAなど総合的に満足していると思われる。レポートの提出が遅れ気味の学生は、期限内に提出し終えるよう、心掛けて欲しい。</p>						
履修登録者数	60名	定期試験 受験者数	58名	合格者数	56名	合格率	97%